



私の家計簿奮闘記

朱 小 妹
ZHU XIAO MEI

私の組合は少し変わっています。なぜなら家計簿を書くという規則があるのです。中国人が家計簿を書く？中国でさえ書かない家計簿をどうして私たち研修生が書かなければならないのでしょうか。私は家庭の主婦ではありません。最初この事を聞いた時は「おかしな組合」と思いました。

入国するとまず集合研修の中で書き方を教わります。もちろん全て日本語で書かなくてはなりません。書き方は、毎食の献立の内容とその材料、そしてその値段などです。毎日幾ら使ったのかも計算します。私は日本の食べ物の名前があまりわからないので、食材等の単語リストをもらい、これを見ながら書くようにしました。

でもこの家計簿は、毎日書かないと大変なことになります。組合の規則では、毎食おかずは三品以上食べなければならないことになっているので、サボったりすると食べた物を必死に思い出さなければならないからです。三日分も溜まってしまったら、自分で書くことは不可能です。とても思い出すことなどできません。だから仲間の家計簿を見せてもらうしかないので。でもこの行為はすぐにばれてしまいます。

家計簿は毎月一回、組合に提出する決まりになっています。それには買い物の際にもらうレシートも貼付する必要があります。そして私の家計簿を組合の人が赤ペンで丁寧に添削して、送り返してくれるのです。そして以前返ってき

た家計簿に、組合の人のメッセージとして次のようなことが書かれてありました。「朱さん、他の人の家計簿をマネしましたね。間違った所が全部一緒でしたよ。私も真面目に直しているので、朱さんも真面目に書きましょう」私はとても恥かしくなり、それ以降は真面目に書くようになりました。

家計簿を書く理由は二つあります。一つは日本語の勉強、そしてもう一つは健康管理です。私たちは基本的に食生活には無頓着です。食費を削って生活費を切り詰める傾向があります。でも体が健康でないと、いい仕事などできません。組合の人達は私たちの習性をわかっているからこそ、徹底した食生活の管理をしているのです。栄養のバランスと言われても、今まで考えたこともありませんでした。

でも規則を守らないと組合から叱られるので、自分でも段々正しい食生活を意識するようになりました。最初は嫌だった家計簿も、習慣になるとなぜかきちんと付けたくなるものです。会社のおばさんの話では、日本人でも三日坊主の人が多そうです。そんな家計簿を私たち中国人が三年間書こうとしています。これは自分でも凄い事だと思います。せっかく身についた習慣なので、中国に帰ってから書き続けたいと思っています。でもその時は中国語で書くつもりです。